

②【あいみ富有の里地域振興協議会】
発表テーマ：「新たな地域運営の担い手」

～あいみ富有の里地域振興協議会～

南部町の東南に位置し、梨、柿などの果樹栽培が盛ん。
地域内には、日本有数のフラワーパークがある。

○あいみ富有の里地域振興協議会
事務所：総合福祉センターいこい荘
設立：平成19年6月17日

【集落数：12】
人口 1,181名
世帯数 344世帯
高齢化率 36.8%
(平成27年11月末現在)



《 質 疑 回 答 一 覧 》

No.	質疑	回答
1	J A店舗の活用は見込めないか？	J A側は8月1日付けで第三者（農産物加工者）に賃貸しており、困難である。
2	閉店したJ A店舗の利用の考えはあるのか？あればどのような活用があるか。	J Aの施設であり困難である。
3	J A店舗の利活用について、住民の意見は？	存続を望む声が多くあったが、J Aの経営方針上止むを得ないものと判断した。
4	J A店舗の今後の活用策は？	同上（不採算事業の撤退は全国的な流れ？）
5	J A店舗の買手は見つかったか。	J A側は8月1日付けで第三者（農産物加工者）に賃貸。
6	振興協議会が運営して店舗を継続する意欲はないか。	J A施設に期待はできない。他の方法を模索中である。
7	地域住民は買い物対策にどのような要望をしているか。	買い物店舗の必要性は十分理解できる。何とかしたい。
8	買い物難民対策では、現状ではどのような買い物を住民はしているか。	把握できていない。
9	年配者の方は買い物をどのようにしているか。	把握できていない。
10	買い物店舗がなくなり、これからどういう方法で店舗を持つてくることを考えているか。	地方創生事業に期待している。
11	過疎化・少子高齢化・買い物難民等にどのような対応をしているか。今後の対応は。	特定団体（例えばJ A）に期待できない。行政の支援を望む。
12	えぷろんを核とした交流拠点「多機能型」とは具体的にどういうことか。	特定の事業展開を図ることではなく、交流拠点として多目的利用を考えている。
13	ユニットハウスの活用は、外部（協議会以外）の方でも可能か。	所有権が不明確であり、現状では地域内利用に限定的に考えている。

《 質 疑 回 答 一 覧 》

No.	質疑	回答
14	ユニットハウスの当初の利用目的は？	多目的利用を検討した。
15	ユニットハウスの誘致への取り組みはどのような意志があったか。	ユニットハウスは地域の交流拠点と位置付けている、えぶろんの付帯設備でありであり、多目的利用施設として位置付けている。
16	ユニットハウスはどこが、どんな目的で作られたのか。	地元産木材の活用モデル事業の一環
17	高島屋(ローズちゃん号)の利用状況とその効果は。	把握できていない。
18	ユニットハウス拠点化といっても住民の送迎はどうなのか。買い物ができない状態の中でユニットハウスを拠点化しても住民の集まりが上手くできるか。	ユニットハウスは地域の交流拠点と位置付けている、えぶろんの付帯設備であり、ユニットハウスを拠点化するものではない。
19	なぜ「えぶろん」を離れたところに作ったのか。人の出入りが日常はないように見受けられる。	南部町の農産物加工施設であり、協議会から回答できない。(指定管理を受けている)
20	花回廊に行く県外者をどのようにして取り組んでいるか。	青空市開催時には幟を立てPRしている。(時々立ち寄る来客者もある。)
21	もっと花回廊との連携はできないものか。	地域内にある施設であるが、設置形態が異なり、連携が取れていない。集客は常に意識しているが実現できていないのが現状であり、今度の課題である。
22	えぶろん行事の開催情報を花回廊の客へ流しているか。	青空市以外は想定していない。
23	花回廊と協議会のイベント等の関連性及び協力体制はあるか？	協議会の会員が協力している。
24	えぶろんへの集客、特に花回廊観光客、県内外の観光客を呼び込むための工夫や企画案があるか。	集客は常に意識しているが実現できていないのが現状であり、今度の課題である。
25	えぶろんの事業主体はどこか。	南部町の農産物加工施設であり、協議会が指定管理を受けている施設である。
26	青空市の収益は協議会、出品者のいずれか。	出品者から販売委託料10%を徴収している。
27	イルミネーションのもっと強い発信を乞う。あいみ富有の里にふさわしい「アイミナラコソ」のインパクトある発信を期待する。	今後とも情報発信に努めたい。
28	えぶろんという言葉は初めて知った。語源は？名前の由来は？	農産物加工施設で活動する姿(服装等)をイメージしたものである。
29	バス存続運動の地域住民の関わりは。バスを守る意気込みは認めるが、老人・若者など地域住民の協力体制は。	バス存続運動のPR不足は認めざるを得ない。地域住民を引き付ける運動を展開したい。
30	住民自身がバスを本当に利用する意識と必要性を感じているか。	交通弱者にとっては必要不可欠なものと理解している。
31	バス利用乗車活動は具体的にあるか。	県の補助事業を受け、ギャラリーバス・フルーツバスを運行し利活用の啓蒙を図った。自転車搭載・ダイヤ改正・運賃補助・バス停の美化活動も実施してきた。
32	バス利用促進の取組で、通学定期券(回数券)以外にはどのようなものがあるか。	
33	協議会の活動へ若い人の参加状況はどうか。	事業内容によりバラつきがあるが、若い人を限定した活動は意識していない。
34	ホテルを活かした今後の地域づくりの展開は。	環境美化及び自然環境の保全と活用を図り、美しい農村・田園づくりを目指している。

《 質 疑 回 答 一 覧 》

No.	質疑	回答
35	地域で起こる様々な問題解決に取り組んでいるが、こうした問題をどのように集約されているのか。身近な問題が多いだけに逆に難しい面があるのではないか。	今まで行政に頼りがちな姿勢から脱却し、自分達で出来ることは自分たちでやるという基本方針に基づき活動を行っている。
36	協議会の行事に関する関心度は。	9年が経過し、一定の認知度があるものと理解している。
37	子ども子育て世代の取り込みをどう進めているか。	特に意識した活動は行っていない。
38	「町づくり」は「人づくり」に尽きると考えるがイルミネーションやえぷろん活動のほかにどんなことを行っているか。	子供は地域の宝であり、安心・安全な町づくりを図るため、児童の下校時見守りパトロールを毎日実施。歩道除雪支援。子供の交流事業。地域の人材発掘のため「富有塾」の開催。
39	現在行っている事業で、集落間の連携・協力を深めるのに、効果的な事業があるか。また連携を深めるために取り組む予定の事業は。	電子版地域防災システムを稼働している。
40	将来のビジョンとあるが、3～5年後のビジョンはどう考えているのか？	各期毎（5年計画）に地域づくり基本方針を策定している。現在二期地域づくり計画を実施中である。
41	集落間の連携は様々な活動を通じて進んだのか。	充分とは言えない。今後の課題でもある。
42	地域の未来を考え学校と連携した取り組みがあるか。	小中学校のCSに協議会から代表者を出している。
43	他に独自でやっている地域住民参加事業はあるか。	多種多様であるが代表的なものとして、旧町合同運動会、G・G大会等がある。
44	地域の中で人々のコミュニティ的な場所ができないか。	協議会単独で設置することは困難であり、えぷろん周辺での地方創生事業に期待している。
45	協議会不要論が根強かったのはなぜか。	行政の下請け化が懸念された。
46	協議会不要論はどんな内容であったか。	

《 助 言 一 覧 》

No.	助 言
1	J Aの空き店舗に青空市を使ってはどうか。
2	J A店舗を東西町のように、住民で運営できないか。
3	J A店舗を高齢者向けへの施設に利用変更できないか。
4	買い物難民とバス利用の促進として、町内・米子市への買い物ツアーを計画してはどうか。
5	買い物施設がなくなった地域内のサポートを、今後協議会が担っていく。その方向性に期待したい。
6	買い物難民対策はどこでも困っている課題。積極的に対応を進める。良い案があれば教示を願いたい。
7	えぷろんイルミネーションは知らなかった。富有の里祭り等ももっとPRして、花回廊とも連携し何か継続できる事業を企画すること。
8	えぷろん特産品。ここでしかないという品物を置いてはどうか。町内全体に周知されていない感がある。ユニットハウス活用も他地区へ周知し、応募してはどうか。（PR不足？）
9	花回廊へ観光客が通る道路もあり、有効活用できるチャンスの場合。梨・柿の加工品などの特産品の取り組みに力を入れる。
10	えぷろんを地域のコンビニ（地域ステーション集いの場）にしてはどうか。

《 助 言 一 覧 》

No.	助 言
11	ユニットハウスを「お接待所」にドライバー・ライダー・サイクリング・休憩施設に。室内には四季の風景写真を展示。
12	花回廊に多くの県外客を取組むこと。まちづくりに繋がる。
13	えぷろん加工施設で賑わいが生まれる事業交流を検討する。月別計画を策定すれば面白い。異世代交流の促進を。
14	ユニットハウスの活用は近くのイベントを補足する機能を果たすようにしたらどうか。
15	ユニットハウスの利活用について、地域住民によりワークショップを実施したらどうか。
16	ユニットハウスでジュラート屋を開設してはどうか。町内に酪農家もある。
17	ユニットハウスはレンタルスペースとして活用。個人事業主の方のアトリエやオフィスとして活用。カフェや買い物スペースの管理人を委嘱する。
18	えぷろんの取り組みはとても良い。もう少し回数が多いと良い。
19	青空市の時に移動販売車を招いてはどうか。
20	富有柿を使ったお土産品などの食品開発・製造販売ができると町外からの来訪に繋がる。(種とばしの時にも販売する)
21	会見・賀野地区を訪れて一番感ずることは「食の場がない」ということ。食べさせてコーヒータイムのできる店創りのロマンはないのか。花回廊は除いて一歩前へ！！
22	えぷろんで地域住民の運営する食堂など考えられないか。
23	バスの時刻表をカードにして配布したらどうか。
24	日ノ丸バスは天万庁舎までとし、手間山と富有の里でデマンド的な自主運行するとサービス面の向上につながる。費用面でも安くなる。
25	路線バスと関係のないと思われる地域の人たちにも協力や意見を求める。
26	えぷろん・いこい荘から離れた地域の交通手段としてデマンドバスの運行(小型)を考えないか。
27	乗り合いバスを何が何でも守ろうという姿勢は素晴らしい。
28	地域で運営するデマンドバス導入に向けた勉強会をやってはどうか。
29	町内で一番子育て環境が良い地域である。そういった切り口で地域活性化に繋がれば良い。
30	住民参画の仕掛けが見えない。中山間地の景観を守る仕掛けが見えない。
31	ホテルの里とその基軸をひとつとした通年の取り組みは考えられないか。キーワードは環境・景観。
32	イルミネーション・えぷろん売り場・花回廊などたくさんのセールスポイントがあり素晴らしい。それを今後は総括的に生かせるような取り組みが考えられる。
33	緑水園にあるキャンプ場やバンガローを使って幼児のキャンプに利用してはどうか。
34	「地域に自信と誇りを持つ」いいですね。その通りだと思う。
35	中山間地における高齢化率の向上にたいし、小さな集落合併が必ず必要になってくる。私も集落合併の準備を進めている。
36	拠点施設を「いこい荘」に。あるいはもっと近くに持ってくるべきでは・・・
37	人口減少化に伴う子供たちとの共同活動を考えたらどうか。
38	協議会不要論があったとのことであるが、やろうという人達だけで、出来ることを少しずつ広げられると良い。少しずつ輪が広がれば良い。
39	発表のテーマの設定が良かった。